

今日の説教のポイント <使徒言行録10章34-48節>

- ①「そこで、ペトロは口を開きこう言った。『神は人をわけ隔てなさないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。』(34-35)

ペトロが、「神は人をわけ隔てなさないことが、よく分かりました」と言っています。イエス・キリストの福音を神様が全ての人のために用意して下さったものであることがこれまで分からなかった、今わかったと言っているのです。驚きませんか。初代教会の中心のペトロがそんなことが分からなかったなんて。神様が選ばれた自分たちだけのものと思っていたなんて。しかし、今、彼は理解したのです。信仰の理解は一挙に全部なされるものではありません。神様がお送り下さったイエス・キリストを受け入れて、御言葉に聞き従って歩み行く中で少しずつ理解が深められていくものなのです。

- ②「そしてイエスは、ご自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。」(42)

今日の箇所を読むと、何が伝えたいかがよく分かります。34～40節では、全ての人のために救い主イエス・キリストが送られたこと。その構造。41～43節では、神様はそのことを一気に人々に伝えるのではなく、選ばれた人々を用いて伝えさせ、それを聞いた人が信じるようになる方法を採られたということです。こんなまどろっこしい方法をなぜ神様が採られたのか。それが次に私たちが考えなくてはならないことです。「神様がなされたことだから、そこには必ず深い恵みが込められているはず」と思いながら、聖書を読み、考えていく。それが私たち人間がなすべきことです。その時、必ずその意味が見えて来ます。

- ③「わたしたちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、水で洗礼を受けるのを、いったいだれが妨げることができますか。」(47)

異邦人の信仰者たちが洗礼を受ける前に聖霊が下りました。聖霊の与えられ方(洗礼とどちらが先か)は使徒言行録の中でも色々です。私たちが考えなければならない大事なことは、「神様は自由に私たちに働いて下さる」ということではないでしょうか。神様のなさり方にお任せしましょう。この恵みの神様に全てお委ねして洗礼を受け、主の体なる教会の枝につらなり歩んで行く。それを神様は求めておられるのです。